岩国市中小企業等振興審議会　第17回審議会議事録(要旨)

日　時　令和８年７月17日(金)　13：30～15：30
場　所　岩国市役所本庁舎４階　41・42会議室
出席者　委員15名（欠席２名）
　　事務局　産業振興部長、商工振興課長、商工振興課副課長、商工労政班長、
　　企業立地推進室長、観光振興課副課長、シティプロモーション課長、
　　企業振興班員

１　開会
　自己紹介

２　会長選出

３　審議会及び第16回審議会の主なご意見　資料１、議事録(要旨)
（事務局から資料に基づき説明）
　なし

４　議事
　⑴　中小企業等振興事業の取組状況について　資料２
　（事務局から資料に基づき説明）
主な意見・質問

■観光振興の取組、商工との連携
・宿泊者数や搭乗者数の増加に向けた取組は行われているものの、現在の観光振興は盛り上がりに欠けた部分があると感じる。どのような取組を行っているのか。
　(事務局)
・今秋、放送開始予定の作家・宇野千代をモデルとした連続テレビ小説に合わせ、今年初めから「ちよ散歩」のロゴマークやプロモーションタイトルを作成し、周知を行っている。宇野千代生家の環境整備やデジタルコンテンツの準備を進めているが、現時点では目に見えるコンテンツは完成していない。
・放送開始までに、宇野千代ゆかりの場所を巡ることができるよう準備を進めるとともに、岩国市の新たな魅力を発信できるよう取り組んでいる。

・専用ホームページやInstagramによる情報発信も実施している。

・観光業と商工業が連携できると望ましい。実際にどのような連携を行っているのか。

（事務局）

・観光プロモーションによる誘客によって地域経済の活性化につなげるという視点を持って施策に取り組んでいる。

・錦帯橋周辺店舗の改装にかかる経費の補助を実施しており、市全体として取り組んでいる。

・岩国西商工会が事務局を務める周東観光協会では、宇野千代に関する講演会や展示会を実施している。

■観光振興における地域・民間との連携

・現状では行政主導となっており、民間企業が主体的に動ける環境になっていない。民間が主体的に取り組める機会を設けていただきたい。

・市の取組を中山間地域でも共有してもらい、それを基に錦町の観光振興に活用したい。

（事務局）

・連続テレビ小説については官民26団体による実行委員会を設立し、団体を通じて情報発信を実施している。より積極的に周知を行いたい。

・また、錦川清流線の利用促進として、錦帯橋・ロープウェー・岩国城の入場料がセットになった「セット券」の購入者に対し、錦川鉄道の周遊券を半額で販売している。

・錦帯橋の観光振興から他地域の観光につながるよう、取り組んでいきたい。

■小規模事業者への支援

・最近は日本政策金融公庫と金融機関による協調融資が多く、岩国市制度融資創業支援資金については、実績以上に事業者への融資が行われている。

・日本政策金融公庫では、利用者のほとんどが小規模事業者である。

・制度融資を利用できない小規模事業者への支援を拡充してほしい。

（事務局）

・制度融資は、多くの事業者が利用できる制度設計としている。

・審査をしている金融機関や信用保証協会から、融資条件が厳しいとの意見はあまり聞いていない。

・日本政策金融公庫の小規模事業者経営改善資金（マル経融資）は商工会議所の経営指導を受けながら融資を受けるもので融資審査も通りやすいなどのメリットがあると考えている。制度の周知を行いたい。

・小規模事業者が活用するマル経融資の相談件数は昨年比約1.2倍になる見込み。

・小規模事業者の資金需要が高まっており、利子補給などの支援制度があれば事業継続や

活性化につながる。

（事務局）

・岩国市制度融資は保証料を全額助成しており、県内他市町と比較しても多くの事業者に利用されている。利子補給については金融市場の状況を踏まえ検討したい。

⑵　令和９年度施策の検討状況について　資料３、当日追加資料①

（事務局から資料に基づき説明）

主な意見・質問

■こどもキャリア体験事業（仮）について

・対象が小中学生なのはなぜか。高校生は対象ではないのか。

（事務局）

・高校生に対しては、カンパニーガイドの配布や職業理解セミナーを実施し、地元企業への理解を深める機会を設けている。

・小中学生を対象とした理由は、将来の進路選択に向けた意識を早い段階から育むためである。

・また、進路選択には保護者の影響が大きいことから、保護者と一緒に職業や地域企業について知る機会とすることも狙いとしている。

・参考とした他市町の実績として小学 4 年生から中学 3 年生までの参加が多くニーズも高いことも踏まえている。

・地元企業の存在だけでなく、仕事内容や職場環境を知る機会が重要である。特に女性が働きやすい環境であるかを実際に見て判断したいというニーズがある。

・高校生は進路や就職先を具体的に決める時期であり、企業を直接知る機会が必要である。

・小中学生向けのキャリア体験に加え、高校生を対象とした企業見学や職場体験などの施策についても検討してほしい。

・若者、特に女性の県外流出が課題となっていることから、定着の促進が重要である。AI や ICT、ドローン等の技術活用も含め、女性が積極的に参画できる環境づくりが必要である。

・周南公立大学の学生が週に 1 回事業所を訪れており、学生からブランディング等について助言を受けている。企業と学生の交流の場を増やすことが大切である。

・市内企業の認知度はまだ低い。子どもの頃に地元企業を見学・体験することで記憶に残り、将来的な地元就業につながると考えている。

・他国では子どもの意見を政策に取り入れている事例もある。若い感性を政策に反映させることで、新たな施策の発見や地域の価値向上につながる可能性がある。

■省エネ・脱炭素設備導入促進資金（仮）について

・意見無し

■中小企業人材確保・人材定着促進事業について

・今年度、予算が上限にすぐに達して残念。

・従業員の教育面に対する支援制度はあるのか。

（事務局）

・「岩国市人材確保・人材定着促進事業費補助金」では、人材定着に向けた就労状況分析や改善案の策定、従業員意識調査を補助対象としている。今年度は定着支援に関する申請が２件あり、来年度も支援を行っていきたい。

■新規移住者の雇用に対する助成制度について

・IT 企業はリモートワークの普及により場所を選ばず企業活動ができるため、市内に新たな事業所の設置を推進する必要性はあるのか。

（事務局）

・IT 企業は場所を問わず事業活動が可能である一方、製造業と比較して事業所を新設しやすい業種と考えている。

・また、近隣の高等教育機関では情報系学部の新設が進み、情報系企業への就職を希望する学生が増加しているものの、市内には情報系企業が少ない状況である。若者の雇用の受け皿を確保するため、市内への事業所の新設を促し、地域の雇用創出を図ることを目的としている。

・あわせて、IT 企業に限らず製造業をはじめ幅広い業種の企業誘致を進めていく考えである。

・山口大学も情報学部が新設された。情報学部の人材を IT 企業に活かしてほしい。

⑶　中小企業、小規模企業及び小企業振興基本計画の改訂について

資料４、５、６、７、当日追加資料②

（事務局から資料に基づき報告）

■中山間地域における雇用について

・商工に限らず、観光にもいえることだが、やましろ地区をはじめとする中山間地域を考慮した施策が必要であると考える。

・中山間地域では、地理的条件や居住環境などを要因として若年層の確保が難しく、雇用機会も限られている。一方で、企業からは専門的なスキルを有する人材の確保を求める声がある。

・国の補助金や助成金は対象要件が限定されている場合が多いことから、市として、中山間地域の雇用についても考慮していただきたい。

■観光による地域活性化に向けた取組

・観光による地域活性化には、宿泊を含めた滞在型観光の強化が重要であり、そのための支援策や市の取組状況について伺いたい。

（事務局）

・観光客の滞在時間が短く宿泊客や観光消費が少ないことは従来からの課題と認識している。

・現在、歴史的建造物を活用した宿泊施設の整備を民間企業の協力のもと進めている。

・下河原の駐車場が世界遺産を目指すうえでの課題となっていることも考慮し、岩国二丁目・四丁目地区に観光駐車場の整備を進めている。

・併せて、観光客の周遊動線の変化を見据え、錦帯橋周辺の通りの整備や出店への支援を進めることで、滞在時間の延長や地域の魅力向上を図り、将来的な宿泊客の増加につなげていきたい。

・学校の運動場を駐車場用地として開放することは行政的に難しいのか。

（事務局）

・イベント時にはご協力をいただいているところであるが、制約が厳しく毎週末の開放などは難しい。

・県全体としても、観光客の滞在時間は課題となっている。

・岩国市は観光資源が豊富にあることから、日本人観光客だけでなく、外国人観光客の需要に合わせ、施策を検討してもよいのではないか。

⑷　市内の経済状況について（意見交換）　資料８、当日追加資料③

（事務局から資料に基づき説明）

主な意見・質問

なし

５　その他

なし

閉会